

## Red Bull Foiling Generation 2015

### JYMA サポート選手参戦レポート

[Red Bull Foiling Generation 2015](#) が4月15日から 19 日の5日間にわたり和歌山県で行われました。



JYMA(日本ヨットマッチレース協会)は3月に開催された第4回学生&U25 マッチに参加した選手の中から対象年齢の選手に対しエントリー費用のサポートを行い次世代セーリングへの挑戦をサポートしました。ソフトバンク チーム・ジャパンのアメリカズカップ挑戦が発表され ヤングアメリカズカップへの道も開かれた今 Red Bull Foiling Generation 2015 にチャレンジしたヤングセーラーの今後の活躍と飛躍が非常に楽しみです。

同時に世界に遅れを取り戻すための国内基盤や様々なシステムの改革が必要と感じます。今後も JYMA はセーラーを応援してゆきます。

以下 8名の選手のレポートを是非皆さん読んで頂ければともいます。彼らと同世代のセーラーにもぜひ読んで欲しいともいます。彼らが何を感じそして今後何をしなければいけないのかを彼らの言葉でレポートされています 8名分はですのでボリューム有りますがぜひご一読ください。 JYMA

#### JYMA Wakayama University

スキッパー 高竹瑞恵 (19)出身 広島県 クルー 佐々木純哉(19)出身 大阪府

#### TOKAI RACING JYMA

スキッパー 中村 俊平(19) 名古屋大学 クルー 鈴木 空 (19) 愛知工業大学

#### JYMA支援 東京大学

スキッパー 菅原雅史 (19) 東京大学 クルー 宇佐美翔大(19) 東京大学

#### JYMA Tame TOKAI

スキッパー:山本将大 20才 名古屋大学 クルー:長塚正一郎 18才 出身:逗子開成高

## Red Bull Foiling Generation 2015 に参加して

東京大学運動会ヨット部

2年 菅原雅史

2年 宇佐美翔大

まずはじめに、私たちのペアが今回の大会に出場するにあたり、資金面だけでなく様々な面で支援して下さった伊藝会長をはじめとする JYMA(日本ヨットマッチレース協会)の皆様に厚く感謝申し上げますとともに、この大会を主催して下さった Red Bull Extreme Sailing、和歌山セーリングセンターの皆様、そしてその他この大会の運営に協力して下さったすべての方々に厚く御礼申し上げます。

私たち菅原雅史(ヘルムスマン)・宇佐美翔大(クルー)のペアは 2015 年 4 月 15 日～19 日に和歌山セーリングセンターで開催された「レッドブル・フォイリング・ジェネレーション 2015」という大会に出場して参りました。

以下がその詳細な日程になります。

- ・ 4 月 15 日 (水) 受付、ブリーフィング、トレーニングセッション、ウェルカム・パーティ(Red Bull アスリートである ハンス・ピーター・スタイナカーとローマン・ハガラによるトレーニングがあります)
- ・ 4 月 16 日 (木) RD-1 練習
- ・ 4 月 17 日 (金) RD-2 予選ラウンド
- ・ 4 月 18 日 (土) RD-3 1/4 及びセミファイナル
- ・ 4 月 19 日 (日) RD-4 ファイナル・表彰式・ゲストスピーカーによるトークショー

私たちはどちらも 2014 年に東京大学に入学、ヨット部に入部してヨットを始めました。どちらもヨット歴は 1 年程度、ヘルムの菅原に至ってはヘルムを始めてからわずか半年です。

そんな私たちのペアがこの大会に出場しようと考えた理由は、まず第一に Flying Phantom というヨットに乗ってみたかったからです。まだ日本人が誰も乗ったことのないヨットに挑戦してみたい！という強い思いからでした。

さらに、この大会ではローマン・ハガラやハンス・ピーター・スタイナカーといった世界で活躍するプロセーラーたちの指導が受けられるということで、この機会に自分たちの

セーリングスキルを大いに高めることができると考えました。そして、今回得た経験や知識を自分たちが所属する東大ヨット部に還元したいという思いもありました。

また、今大会には同世代の非常に素晴らしいセーラーがたくさん集まっており、彼らと交流することによっても自分たちが成長できたと感じています。特に、少ない練習時間の中で少しでもフォイリングを自分の物にしようという、彼らの向上心の高さには非常に衝撃を受け、私たちも見習っていかねばならないと痛感しました。

大会初日には午前からエントリーの手続きがあり、その後 **Flying Phantom** について **Red Bull Extreme Sailing Team** の方々からレクチャーを受けました。最初にたくさんの注意事項が述べられましたが、特に強調されたのが常にメインシートを中央までしっかりと引き込み、トラベラーを使ってメイントリムをするということです。これは艇速が非常に速いために常に見かけの風が前に回るからです。**Flying Phantom** ではクルーがメインシートを持ち、ヘルムスマンがトラベラーでメインセールをコントロールします。このスタイルに最初は違和感を感じざるを得ませんでした。大会を終えるころにはすっかり慣れていました。



初めて **Flying Phantom** を目にしたとき、その見たこともない船の形状や艀装にとっても驚きました。写真や動画で見たことはありましたが、実際見てみると興奮が止まりません。特に L 型のダガーと呼ばれるセンターボードの独特な形状には目を奪われました。

昼食をとったあと、午後から早速 **Flying Phantom** を使ったトレーニングが始まりました。20 チームを 4 班×5 セットに分け、1 チームあたり約 30 分ずつでの海上練習が行われました。このトレーニングセッションではプロセーラーの



方々と一緒にヨットに乗り、**Flying Phantom** について実際に海上で指導してもらい、フォイリングの基礎を叩き込まれました。プロセーラーの方々は日本語が話せないため常に英語でのコミュニケーションが必要となりましたが、このときほど英語ができない自分を恨

んだときはありませんでした。初日ということもあり、**Flying Phantom** というヨットに慣れる程度にしか練習できませんでしたが、今まで味わったことのないスピード感に終始興奮していました。初めて飛んだ瞬間のあのスピード感は今でもはっきりと覚えています。

実は大会初日からアクシデントがありました。他のチームがデスマストしたというのです。その原因はフリーでメインシートを離したことでした。**Flying Phantom** ではフリーでジェネカーを展開するのですが、470 のスピネーカーなどのようにマストのフォアステイの上から展開するのではなく、マストトップからジェネカーを展開するためマストを後ろから前へ押そうとする力が強く働きます。したがって、ジェネカーを上げている状態ではメインシートでマストを支えているため、メインシートを離した結果マストが逆ベンドしたということだったようです。マストは軽量化のためにカーボンでできているため、逆ベンドするはすなわちデスマストを意味します。

大会初日は海上でのトレーニングのあと陸上に集まってブリーフィングが行われ、その後ホテルに移動してからウェルカム・パーティーをしていただきました。

大会 2 日目は朝からブリーフィングを行い、その後すぐに出艇してトレーニングが開始されました。昨日同様に 1 チーム 30 分ほどの練習時間でしたが、2 日目ということで前日よりスムーズな動作ができていたように思います。お昼ごろに風が落ちてしまったため一時着艇し、ハーバーにて風が出てくるのを待ったあと午後から再度出艇してトレーニングが続行されました。

全チームが 2 日間のトレーニングを終え陸上に戻ってきたあと、主催者側から我々に衝撃的な事実が言い渡されました。明日からのレースにすべてのチームが参加できるわけではないということです。というのも、実は翌日以降予報では風が非常に強く、すべてのチームがレースをするには危険すぎる、と運営サイドが判断したためです。そして 2 日間のトレーニングセッションを経て翌日からのレースに参加できる 8 チームが選抜されました。

私たち菅原・宇佐美のペアとしては選抜されなかったものの、2 つのチームからクルーとヘルムスマンをそれぞれ選抜した新しいチームが運営サイドから言い渡され、宇佐美はクルーとして翌日からのレースに参加できることとなりました。そのペアとなったのが **Tokai Match Racing** のスキッパーの山本将大さん(名古屋大 3 年)でした。

選抜チーム発表後再度出艇し、レースに向けた最終調整が行われました。ここではロスの大きいタック・ジャイブの動作を重点的に練習し、さらに課題であるフォイルの調整を試みていました。しかし、この際フリーでブローチングしてしまい、転落した宇佐美がブームを折ってしまいました。私たちはそのまま着艇し、船の整備等を行いました。

この日も全チーム着艇後ブリーフィングが行われ、翌日からのレースについて説明がありました。レースフォーマットとしては、まず 3 日目・4 日目に全チームによる総当たり戦を行い、5 日目最終日にセミファイナルとファイナルを行うというものでした。

大会 3 日目は 11:30 に第一予告予定でレースの準備が進められていましたが、思ったよ

りも風がなかったためやや遅れて第 1 レースが始まりました。私たちは第 2 レースのためトランスファーボートからレースを観戦していましたが、Flying Phantom4 艇によるレースは非常に見ごたえのある白熱したものでした。しかし、上マーク際でまさかの沈、1 艇がディスマストし、そのレースの完了後全艇一時着艇となりました。

主催者側が用意していた Flying Phantom は予備艇を含め 5 艇ありましたが、初日にディスマストした船と合わせて 2 艇が使えなくなり、レースフォーマットの変更が余儀なくされました。協議の結果 1 対 1 のマッチレース形式となり、予定されていた全チームによる総当たり戦は行わないことになりました。

大会 3 日目は陸上でのブリーフィングにて早めに終了し、レースは翌日以降に持ち越しという形となりました。私たちとしては毎日一度は Flying Phantom に乗っておきたかったので、この日はヨットに乗ることができず非常に残念でした。翌日以降のレースに期待を膨らませながら、私たちは大会 3 日目を終えました。

大会 4 日目は 9:30 頃出艇し、昨日に引き続いてレースが行われました。マッチレース形式にはなりませんが、それ以外の点では特にルール等の変更はありませんでした。

私たち山本さんと宇佐美のペアもついに初戦を迎えました。相手は中村/宮口ペア(名古屋大 2 年/中央大 2 年)です。このチームも私たちと同様にスワップして新しく編成されたチームでした。山本さんと中村くんは以前同じチームに所属し、学生マッチにも参戦していたということで、お互いに新しく導入されたマッチレース形式のルールを得意としていました。

レース開始 4 分前くらいからお互い高い位置につけ、船を止めないように動きつつ相手の出方を伺っていました。私たちはスタート 50 秒前にタックして少し落とすめに走っていくというプランを立てていましたが、タックに失敗したためスタートラインを 5~10 秒ほど遅れて切ることになりました。一方の艇はスタート前に高い位置で待ちすぎていたため、落としすぎで船が停止し、完全にスタートで出遅れていました。この差をキープして上マークを回航し、フリーでも無事ジャイブを成功させ先行していました。

しかし、ここで安全に下マークを回航しようとするあまりジェネカーをダウンするのを早まってしまい、完全に失速し、フォイリングして高速で追い上げてくる後続艇に追い抜かれてしまいました。下マークを相手艇が先に回航し、私たちは彼らとセパレートして何とか追いつこうとしましたが時すでに遅し、私たちは負けてしまいました。

このレースの敗因は完全に私宇佐美の責任です。自分のジェネカーダウンのタイミングが勝敗を分けました。今思えばあのタイミングでもう一度ジェネカーをホイストしてもよかったのかもしれませんが。さらに言うならば、ダガーももっと後ろに下げてフォイリングさせるべきでした。本当に悔やんでも悔やみきれないレースでした。

その後一旦選手たちは全員陸上へと戻り、これから行われるトーナメント戦の抽選を行いました。そして午後再び海に出て、私たちはトーナメント戦を開始しました。

1 レースを消化したものの、風が急に吹き上がってきたため再度着艇し、陸上で風が落ち着くのを待ちました。15 時くらいになると風が安定してきたため再度出艇し、レースを再開しました。

私たちはこの 2 レース目で、深沢/高山ペア(早稲田 2 年/星林 3 年)と対戦しました。スタート直前にはほとんど駆け引きは行われず、深沢艇の後ろに付くような形でスタートしました。相手がフォイリングするために落とすため走り、私たちはしっかりとクロージョーズを走り、その後相手艇がタックしてミートした際も前を切ることができました。しかし、上マーク回航後フリーでは相手が圧倒的なスピードを見せ、私たちは完全に置いて行かれてしまいました。その後も差を埋めることは叶わず、さらに私たちは下マーク際のジャイブに失敗して沈をしてしまい、そのまま敗北しました。

このレースの敗因としては、相手艇よりも私たちにアドバンテージのあるスタート前の駆け引きをもっと積極的に行うべきだったことと、フリーでのフォイリングさせる技術が不足していたことだと思います。実際、私たちは練習でもフォイリングさせることよりもその他タックやジャイブなどの動作を中心に練習しており、肝心のフォイリングに関してはそれほど練習ができていませんでした。特にダガーの扱いについて研究不足であり、ここが深沢艇との大きな差だったのではないかと感じています。

大会 4 日目はその後も順調にレースを消化し、セミファイナルまで行いました。そして翌日の決勝戦、3 位決定戦に進む 4 チームが決定しました。

大会 5 日目の 2 レースは本当にレベルが高く、こちらも見ているだけで非常に熱くなりました。特に、3 位決定戦での小泉艇と中村艇とのデッドヒートにはレースの最後まで興奮しました！今まで私が観戦してきた中で最も刺激的なレースだったと感じています。

レース終了後は陸上にて表彰式が行われました。私たちも表彰台に上がれなかったのは悔しいですが、最後まで一緒に戦い抜いてきた仲間の笑顔にこちらまで胸が熱くなりました。優勝した矢野/藤木ペアには来年の世界大会でも是非活躍してもらいたいと思います。私たちも心から応援しています！

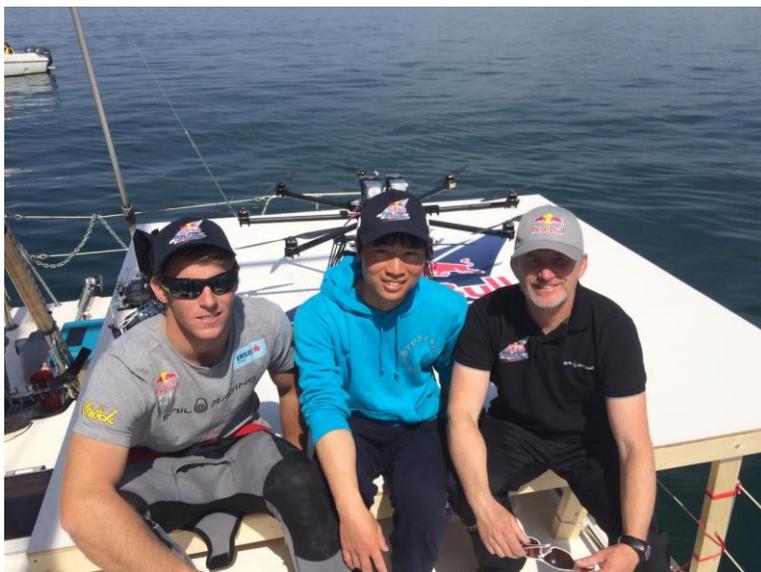
また、今回の大会を通して私たちはたくさんの素晴らしい方々に出会いました。大会初日には日経大監督の三船氏とお話させていただき、ヨットレースという競技を練習していく上でたくさんのアドバイスを伺うことができました。特に三船さんのヨットを科学的に分析し、合理的なプロセスで練習していくことが大切だ、という考えには深く感銘を受けました。



←日経大の三船監督に  
指導を受ける菅原

大会最終日にはスペシャルプレゼンターとして海洋冒険家の白石康次郎さんが来てくださり、私たちに自身のこれまでの体験を熱く語って下さいました。白石さんのひとこと一言にはすごく重みがあり、心にずっしりと響きました。白石さんの、やりたいからやるんだ、やりたくなかったらやめればいい、という言葉は彼の人生そのものを表しているように感じ、私自身も彼のように生きたいと強く思いました。

最後になりますが、私たちにこのような貴重な機会を与えてくださった JYMA の皆様に改めて深く感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。



← Red Bull Extreme  
Sailing Team のローマ  
ン・ハガラ、シュツワー  
トと記念撮影する菅原



↑ Tokai Match Racing の山本将大さんと宇佐美

← 憧れの冒険家 白石康次郎さん

↓ 選抜 8 チームの集合写真



## Red Bull FOILING GENERATION に参加して

JYMA 和歌山大学 高竹瑞恵

この度は、Red Bull FOILING GENERATION にエントリーする当たり、JYMA からサポートして頂いたことにとっても感謝しています。しかしながら、技術が及ばず、レースに出場できずに終わり、このチャンスをものにできなかったことがとても悔しいです。出場資格年齢にも当てはまり、練習拠点である和歌山開催ということで、非常に良い条件の下、サポートして頂いていただけに悔しさが増しますが、この大会では様々なことを感じ、経験させていただいたので、参加できて本当に良かったと思っています。

今回のペアの佐々木は大学のヨット部の同期で、まだヨットを始めて1年ほどですが、この大会を通じて、彼にヨットの世界の広さと楽しさを味わってもらえた事が何より嬉しいです。私は OP、レーザーラジアル、470 を経験し、今年に入って初めて J24 マッチレース、そして今回フライングファントムに挑戦させてもらい、改めて、ヨットレースは楽しい！もっとうまくなりたい！という気持ちを持つことができました。フライングファントムはこれまで乗ってきたヨットとは感覚が違い、速さも桁違いで驚きました。普段は2人ともスキッパーなので、慣れないトラッピーズに少し苦戦しました。トレーニングセッションでは2日とも風の弱い時に乗り、フォイリングできなかったことに悔いが残っています...！また、トレーニングセッションでは **Extreme Sailing Team** の方に一緒に乗ってもらい、直接指導していただきましたが、ヨットの技術は勿論、それに加えて英語の語学力の必要性も感じました。今後またこのようなチャンスが巡ってくるかどうかはわかりませんが、普段からトレーニングと語学の勉強に取り組み、いつでも自信をもって臨めるようになりたいと思いました。

この大会のレース期間は本部艇で運営をしながらレースを観戦しました。自分もレースに出たかったという思いもありましたが、正直それ以上に白熱したレースに興奮し、楽しむことができました。そこではメディアの方々の撮影技術や **Extreme Sailing Team** の方々のレースを楽しもうという姿勢が見られ、大会全体として「見せるレース」であることをとても感じました。日本でセーリングの知名度がなかなか上がらないのは「見せる」ことを目的とするレースが少ないからだと思います。しかし、そのようなレースでは勝者と敗者がより顕著になるという、選手にとっては厳しい反面もあります。この大会を通して、私も人を興奮させるようなヨットレースがしたいと強く思ったので、これから日々精進していきたいと思っています。ありがとうございました。

## ed Bull FOILING GENERATION に参加して

JYMA 和歌山大学 佐々木 純哉

今回、この大会にエントリーさせていただいて、素晴らしい経験になりました。残念ながらレースメンバーには選考されなかったのですが、トレーニングセッションのみの参加という形になりました。練習では微風だったため、飛ぶことはできませんでしたが、ものすごい速さで進むフライングファントムに乗れたことで、よりヨットを好きになりました。自分はまだセーリング歴が浅く、わからないことが多いと感じたので、今後もっと知識を増やしていきたいと思います。この大会で学んだことを普段乗っている 470 級にも活かすことができればと思います。最後になりましたが、JYMA の方々、ご支援ありがとうございました。



## Red Bull FOILING GENERATION 参加レポート

中村俊平

4月15日～19日にかけて和歌山セーリングセンターで行われた「Red Bull FOILING GENERATION」に中村俊平（筆者 スキッパー 19歳 名古屋大）、鈴木空（クルー 19歳 愛知工業大）の二名で参加しました。当初は、私は別のチームのクルーとして参加する予定だったのですが、学生マッチ後にこの大会に出たいという知人がいたためペアを再考し、スキッパー経験のある私がスキッパーとして、クルーには学生マッチに同じ TOKAI Match Racing として戦った鈴木空と参加しました。

レースに参加することを決意した理由は、日本初上陸の FLYING PHANTOM に乗るチャンスはこの機会を逃したら一生ないと思ったからです。何の実績もない私が参加することができるのかどうか心配でしたが、エントリーが締め切られ出場できると決まった時は安堵しました。また 2 年ほど前にモスに乗せさせていただく機会があり、その時の飛んだ感覚が忘れられなかったことも理由の一つです。

一日目、二日目には練習が行われ、二日目の昼過ぎに一次選考の結果が選手に発表されました。一日目は風がなく、二日目は私の技量不足で、この時点では一度も飛ぶことなく選考を迎えました。結果はスキッパーの私のみが通過で、ペアを組み替えて別のクルーと乗るという厳しいものとなりました。新たなクルーは初めて一緒に乗るということで戸惑いもありましたが、前のクルーの分も頑張ろうと思い、少ない時間でしたが練習を重ねました。

レースでは、大差がついてもひとつのブローで逆転も可能だと考え、負けている展開が多かったものの逆転を信じてレースしました。負けた semi final、3位決定戦もともに一時は前を走ることができたのですが、最後には逆転されてしまい実力のなさを痛感しました。

'FLYING PHANTOM に乗った'という経験が今後ヨットに乗る上でどのようにいきてくるかは全く想像がつかないですが、今後セーリング競技を続けていく上で、一生忘れられない経験となりました。また大会を通じて他水域の人とも交流することができ、様々な情報交換をして非常に有意義なものとなりました。

最後になりましたが、JYMA 様のご尽力のお陰で大会に参加することができ、良い経験をさせていただいたことを感謝します。

ありがとうございました。

## Red Bull FOILING GENERATION 参加レポート

鈴木空

今回、フライングファントムに乗れるという貴重な経験ができてよかったです。

残念ながら僕は初日の予選に落ちてしまい、少し乗っただけで終わってしまいました。とても悔しい思いをしましたが、この 30 分乗っただけでも自分になにが足りないのかを改めて知ることができました。

ヨットに上手く乗るためにはその船の情報を詳しく分析するのが大事なことだと感じたので、自分が乗るものは詳しく分析していこうと思いました。また、操縦する上で筋力は重要なので筋トレもしていきたいです。

2日目からは大会の運営側としてレースに参加させていただきました。レースを客観的に観ることができコースの勉強になりました。また、風がどこに吹いていくのかを見るのが重要だと知りました。今回のセミファイナル、ファイナルのレースも風をしっかり読み諦めないチームが勝利したように思えました。

最後に、イベント参加費用を援助して頂きありがとうございました。

大会を通してたくさんの仲間、他の水域のセーラーとの交流ができました。いろいろな情報を交換することができ有意義な時間を過ごすことができうれしくおもいました。

今回の貴重な経験を活かしより一層努力していきたいです。

## Red Bull FOILING GENERATION 参加レポート

JYMA Team TOKAI

スキッパー 山本将大

Red Bull FOILING GENERATION の初戦、和歌山セーリングセンターにて行われた日本大会に参加してきました。世界で初めてのイベントということで、参加者である私たちもどのような大会になるのかまったく想像できないまま会場に向かうことになりました。前半2日間のトレーニングセッションで初めて Flying Phantom に乗りましたが、風速が増すにつれてグングン上がっていくボートスピード、フォイルリングの感覚は今までに感じたことのないものでした。2日間の練習を終え、レースに進むことができるチームのセレクションを行い、私たちはチームの組み換えを行いレースに進むことになりました。

新たなクルーとして東大ヨット部の宇佐美君と臨んだレースですが、Phantom を扱いきれずキャブサイズしたり、ジェネカードアウンのタイミングを誤ってリードを台無しにしたりと、ミスの多い内容でセミファイナルに進むことは出来ませんでした。

その後の上位のレースも勝敗はほとんどが相手のミスで決まっていたのですが、レグごとのセーリングは自分達とは比べ物にならないほどスピードがあり安定していて、フォイルの前後トリムや体重移動、スピードやパワーに対する感覚的なトリムなど、速いチームとの差を痛感しました。

最後まで Phantom を扱いきれないままレースが終わってしまったことは、非常に残念でしたが、選手としてレースに参加し、世界のステージを間近に感じられたことはとても刺激的でした。実際、選手だけでなく、運営、サポート、メディア、いたるところに日本、世界を代表するアスリート、プロフェッショナルが関わっていました。

1年ほど前にキールボートに乗り始め、マッチレースを始め、2年前までは夢の舞台であったアメリカズカップが、今大会を経験してすぐ先のステージであるように感じました。

レース後、白石康次郎さんの話しにもあったように、

"出来るか出来ないかではなく、やりたいかやりたくないか"

そしてその夢を実現したいという"思いと行動力"

これはまさにこの大会の Spirit なのではないかと思います。そんな Spirit を持ったクルー2人とレースをすることができたことを誇りに思います。そして次のステージに向け、この大会でであった同世代の仲間たち、刺激を受けたセーラー達と共に行動をおこしていきたいと思います。

## Red Bull FOILING GENERATION 参加レポート

JYMA Team TOKAI

クルー 長塚正一郎

今回の REDBULL FOILINGGENERATION はフライングファントムという全く新しい船に乗ることができるというイベントではあるが、僕にとってはフライングファントムに実際に乗るということ以外にも多くのことを学ぶことができた、とても刺激的な大会であった。

イベントは、トレーニングセッションとレースに分かれており、トレーニングセッションによってレースに出場できる 8 チームが決まるというものだった。結果的に僕はレースに出ることのできるメンバーに選ばれず、トレーニングセッションでしかフライングファントムに乗ることができなくて、めちゃくちゃ悔しい思いをした。しかし、実際にファントムに乗り、フォイリングしたときの快感や、フォイリングさせ、それを維持するために必要な体重移動の難しさなど、実際に乗って見ないと分からない貴重な体験をすることができた。世界のセーリングが高速化してきているという流れの中で、予選で負けはしたけれど、フライングファントムという船に乗れたということは僕にとって大きな成果であり、今後に必ず繋がるものだと感じた。

ところで、この大会にでるには、学校や部活のことなどある程度のリスクを背負う必要がある。そして、そのリスクを負って参加した選手はみんな熱い熱意を持っていて、僕にとって刺激になることばかりだった。普段乗っている艇種や活動場所、所属は違うそういった同年代の選手と交流することや、もちろんフライングファントムに乗ったこと、また白石さんのプレゼンテーションで、自分のセーリングの幅みたいなのが広がった気がし、これも僕にとってかけがえのない経験となった。そして、この大会を通して学んだことを今回出られなかった選手にも伝えることで、ヨット界を少しでも盛り上げられれば、と思う。

最後に、サポートしていただいた JYMA の方々、本当にありがとうございました！今回は残念な結果になってしまいましたが、これからの活動で恩返しができると思っています！